



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」 令和4年6月28日



「みんなちがってみんないい」を合言葉に

校長 小野木義浩



今年度、三輪南小学校では、**道徳の授業の充実を柱**にしながら、「**人権教育**」に力を入れて取り組んでいます。

さて、子供たちが、社会の中で活躍しはじめる頃は、「**多様性の時代**」が到来していると言われています。今以上に、世界中がつながり、自分とは異なる言葉を話し、異なる習慣をもつ人、また、異なる考え方や感じ方、価値観が異なる人たちと、いっしょに生活したり仕事をしたりすることが格段に増えています。

人は元来、自分と異なるものを避けたり、排除したりする性質をもっていると言われています。

学校生活を始め、いろいろな世界は「**様々な違いのある人**」が集まってできています。だから、当然、そこに摩擦は生まれます。苦手な人を避けようとしたり、意見が衝突したり、けんかをしたりすることは、必ず起こるものです。いじめだって生まれます。

しかし、これから子供たちが生きていく上で、答えが見つからない問題に立ち向かったり、一人では解決できない問題に取り組んだりすることがたくさん出てきます。その時は、まわりの人と力を合わせていく必要があります。だからこそ、自分と違う人とともに生きていく力：「**共生力**」が今まで以上に求められます。

「違うことは当たり前」「違うけれどみんなよいものをもっている」とお互いの違いを理解し、認め合うことがすべてのもととなるのです。自分も他人も大切にできること・違いを大きな心で認め合い尊重できることは、とても大切なことです。

以前、子供たちに人権についてこんな話をしました。

「**人権**」とは、一人ひとりが生まれた時から持っている「**自分らしく生きる**」権利のこと。

権利って少し難しいけれど、つまりは、みんな生まれた時から「自分らしく生きてよいですよ」とされているのです。

みんながそれぞれに違うように、全部が同じ人なんて誰もいません。一人一人の違いを認め、自分や友だちのよさを見つけることで、それぞれが大切な存在であることに気がきます。

「どの人もしあわせに生活する」・「しあわせになる」権利が憲法や法律で守られています。

だから、仲間はずれやいじめ、暴力や暴言、虐待、出身や社会的身分などでの差別、根拠のないうわさ、障がいや理由にした差別や不当な扱い、「女のくせに、男くせに」という固定観念、SNSなどでの匿名による悪質な書き込みなど、すべての人権を大切にしない行為は許されないのです。

人権は誰にでもあるものです。自分にもありますし、相手にもあります。自分の権利だけ主張していると、知らずに相手の人権を侵害してしまうこともあります。こうならないためにも「自分がもし相手の立場だったら」と常に考えて行動することが大切です。

日常の何気ない言動が、誰かの人権を侵害していないか、もう一度考えてみましょう

日常の生活の中にも、一人一人が立ち止まって考えなければならない問題があります。機会がある毎に、学校・家庭・地域で「人権」について話題にし、人権の大切さについて考えるきっかけにしていきたいです。ご理解・ご協力をお願いします。